

二〇一六年二月九日

見せしめのやうに鮫鰯吊られけり
日短職員室の窓灯る
一畝は葉牡丹が占む菜畑
剥落の五百羅漢や堂冷むし
厨ごと夫にまかせて風邪に臥す

二〇一六年二月八日

葦隠れ出で入りするは鴨の尻
冬怒涛いまも継がる鯨歌
堆く落葉を積みて水漬く舟
塚のごと黄落を積む大銀杏
散り尽くし冬天支ふ大銀杏
彩窓のイエスの像へ冬日燦

二〇一六年二月七日

錦秋の里に飴す夕の鐘
寒禽の鋭声とびかふ朝の杜
黄落の尽きて明るき雑木山
ママチャリの一団がゆく土手小春

二〇一六年二月六日

冬ぬくし庭に植え足す竜の髯
背を丸め釣り具手入れす日向ぼこ

二〇一六年二月五日

土塀越し花枝の匂ひけり
対話すること向き合ひし案山子かな
拭き出せば窓の多さよ日短
庭小春少し開けある花頭窓

二〇一六年二月四日

日向ぼこ待つたなしぞと王手飛車
落葉蹴ちらしてボールを追ふ小犬
冬風へ注ぐ天使の梯子かな
干し蛸の風に右向き左向き

二〇一六年二月三日

枯蓮に鎮魂の風通ひけり
ひとときを落語に笑ひ年忘れ
日溜りの墓碑存問す冬の蝶
大根の浅漬けを噛むリズムかな
千枚田麓に抱きて山眠る
大笑ひさながらに裂け石榴の実
白壁にアートをなせる蔦紅葉

さつき

泰山

よし女

菜々

宏虎

さつき

やよい

たか子

さつき

はく子

菜々

三刀

なつき

こすもす

ぼんこ

毎日句会みの選・二〇一六年二月二日

三刀
やよい